

NST 活動の現状と問題点

桑名市民病院 外科・栄養サポートチーム

寺邊政宏

桑名市民病院は 12 診療科、234 床の急性期病院である。NST は 2000 年 11 月、院長の主導により top-down で設立された。NST の現在のメンバーは責任者 1 名(外科医師)、指導者 2 名(薬剤師、内科医師)、管理栄養士 2 名、看護師 9 名の 4 職種のみで構成されている。

現在までの NST の活動成果は 1) 輸液ルートのカローズドシステムへの変更、2) 経腸栄養剤の拡充、整理、3) ハーフ食の導入や濃厚流動食の積極的利用の推進、4) 経腸栄養法マニュアルの作成、5) 脂肪乳剤使用の適正化、6) 経腸栄養の普及などである。

栄養管理の現状と問題点について報告する。

スクリーニングは入院時に簡易栄養スクリーニング票を用い、身長、体重、食事量、体重減少、身体機能、浮腫と褥瘡、BMI、アルブミン値をチェックし NST 症例とするか否かを判断している。これにより入院時に存在する栄養障害を見逃すことは非常に少なくなりましたが、入院後に栄養状態が悪化していく患者への対応がしばしば遅れることが問題点である。

NST 介入時の問題点としては急性期の患者に関与しにくいことが挙げられる。急性期において患者に栄養障害があるとわかっていながら、病勢がある程度落ち着いてからしか介入できないということが多い。また、提言内容が経口栄養、経腸栄養、静脈栄養となるにつれ主治医の受け入れが悪くなることが問題点として挙げられる。

以上の問題点を解決することで、さらに多くの患者を栄養障害による不利益から救うことができる。